

日時：平成24年(2012年)10月4日(木) 午後2時～4時50分

会場：大阪国際会議場 12F 特別会議場

京阪電車中之島線「中之島(大阪国際会議場)駅」(2番出口すぐ)

〒530-0005 大阪市北区中之島5丁目3-51 TEL:06-4803-5555

### 1. 大豆の加工と日本人の知恵

東京農業大学 名誉教授 小泉 武夫

大豆は日本民族にとって特別の意味を持っている。聖武天皇の時代、そして大仏の開眼にあわせて殺生禁断、肉食禁制の布告により、以後日本人は獣肉食を忌避してきた代わりに、有効なたん白質源(活力源やスタミナ源)として肉の代わりに大豆を尊んできた歴史を持つからである。そのような歴史的経緯を持ったがために大豆の食べ方や加工法は実に多彩となり、この小さく丸い粒は、長い間日本人の命を繋ぎ、舌を踊らせ、そして穏やかな心まで育ててきた。その背景には大豆に対する日本人の弛まぬ研究心と高度な知恵が織り込められてきたのである。講演では、大豆と日本人の歴史を語るとともに、この民族の大豆加工の多才さと優秀さについて述べる。

### 2. 世界の食料問題と大豆の役割

(独)国際農林水産業研究センター 理事長

岩永 勝

世界の食料価格は2007年の後半より急騰し、2004年と比べると凡そ2倍の価格で現在も高止まりをしている。このために十分な食料を購入できない貧困層が開発途上国で増加し、社会不安へと発展した。今後も人口増加、そして食料の需要増加が続くことが確実視され、これに対応できる十分な食料を持続的に生産できるかどうかの世界にとっての最大の課題である。大豆は生産地拡大、生産性向上、国際取引増大、消費拡大、消費と利用の多様化、高付加価値化等で際立った特徴を持ち、今後の世界の食料問題の中心的な位置を占める。

### 3. 日本人の健康と肥満

大阪大学大学院医学系研究科 教授 下村 伊一郎

戦後日本人の糖尿病患者数は30倍に増え、現在の糖尿病患者は2千2百万人とされる。脂質異常症、高血圧もしており、これら危険因子が増えることによって、従来、日本では少なかった心筋梗塞や脳梗塞が増加し、日本人の生命を脅かす最も大きな原因となっている。このなかで私達は、内臓脂肪、メタボリックシンドロームと名付けた病態、そしてアディポネクチンと名付けた脂肪から作られるホルモンの低下が、重要であることを示して来た。その中でどのような食習慣がよいのかも見えてきた。本講演では、日本がリードしてきた肥満研究と現代病における意義をお話したい。

主催 公益財団法人不二たん白質研究振興財団 運営委員長 住友病院 院長 松澤 佑次  
 後援・協賛 (社)栄養改善普及会 日本育種学会 (公社)日本栄養・食糧学会 (NPO)日本栄養改善学会  
 (社)日本栄養士会 (社)日本家政学会 (社)日本食品科学工学会  
 (社)日本植物蛋白食品協会 (社)日本調理科学会 (公社)日本農芸化学会 日本臨床栄養学

★聴講ご希望の方は、氏名・郵便番号・住所・電話番号・勤務先を明記の上、E-mail、FAX、ハガキでお申し込み下さい。先着400名の方に聴講券をお送りいたします。お申し込み受付は平成24年9月27日必着とさせていただきます。なお、皆様の個人情報は本講演会のご案内のみに使用いたします。

★問い合わせ・申込先

## 公益財団法人 不二たん白質研究振興財団

担当：上田・高松

〒598-8540 大阪府泉佐野市住吉町1番地 不二製油株式会社内

TEL. 072-463-1764 FAX. 072-463-1756 申込専用E-mail : kouen@so.fujioil.co.jp

\*\*\*\*\*FAXで申し込みされる方は下記に必要事項を記載してお送り下さい\*\*\*\*\*

**FAX宛先：072-463-1756**

「公開講演会 大豆のはたらきin大阪-文化・資源・健康から見た役割-」の聴講を希望します。

氏名：.....  
 郵便番号：..... 住所：.....  
 電話：..... FAX：.....  
 勤務先：.....